

令和7年度 第1学年 授業改善推進プラン

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を正しく理解したり、最後まで集中して聞いたりすること。 ・拗音、促音を正しく書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を最後まで集中して聞く力。 ・話を聞きながら内容を整理して、理解する力。 ・拗音、促音の使い方を正しく理解して、書き表す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一つ目に○○、二つ目に□□」など、話の順序が整理できるように教師が心掛けたり、理解しているかどうか確認するよう声を掛けたりするなどして話の聞き方を練習する。 ・拗音、促音の使い方を繰り返し練習し、文を書く練習をたくさんする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を理解して、正しく立式すること。 ・基本的な一位数と一位数の加法及び減法を計算すること。 ・加法や減法を用いる場面を誤ったり、答え方を間違ったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで、様子を想像する力。 ・素早く正確な計算力。 ・式から場面を想像したり、考えたりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの文章問題を解き、場面を想像して立式する場面を設定する。 ・計算練習を重ね、習熟を図り、計算の仕方の理解を確実にする。 ・式から場面を想像して問題を考える練習をする。

令和7年度 第2学年 授業改善推進プラン

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> 大事なことを落とさずに人の話を聞くこと。 字形を整えて、文字を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を正しく理解して聞く力。 とめはねはらいなど、画に気を付けて正しく字を書く力。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会や全校昼会など、話を聞く機会において、逐一、相手の伝えたいことを意識させるよう指導を重ねる。 書写の時間を有効に活用し、一字一字の字形や画を繰り返し意識させたり、指導したりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 時計の読み方、時刻と時間の区別、時間の感覚を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 日、時、分の関係を理解し、時刻と時間を日常生活に生かす力。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の生活時程や校外学習の行動時程など、自分事になる時刻と時間を経験的に意識し、時間の感覚を豊かにしていく。

令和7年度 第3学年 授業改善推進プラン

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中 心を的確に捉えること。 ・相手や目的を意識して集めた材料を比較したり分 類したりして伝えたいことを明確にして書くこ と。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序など話の組み立て方を意識しながら、 話の要点を聞き取る力。 ・書く内容を考える際の素材を、共通点や相違点に 着目しながら比べたり、共通する性質に基づいて 分けたりして、伝えたいことが明確になるように 書く材料を整理する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く前に、聞き取るべき要点（登場人物、場 所、出来事、理由など）を具体的に提示する。 ・キーワード、キーフレーズを意識させることで、 話の骨子を捉えやすくする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数や数量関係に着目し、必要に応じて具体物や図 を用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する こと。 ・長さ、重さの量から身の回りの事象の特徴に着目 し、目的に応じた普遍単位を用いて、量を的確に 表現したり単位を統合的にとらえたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の表し方や計算の仕方を考察する力。 ・量に着目し、的確に表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図、式、言葉をセットにして表現できる機会を増 やし、数量やその関係を表したり読み取ったりす る活動を取り入れる。 ・長さ、重さなどの単位を学習し、それぞれの単位 が表す量を具体的にイメージできるよう、単位換 算の学習機会を増やす。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習問題を設定し、解決すること。 ・様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調 べまとめる技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を設定し、主体的に解決する力。 ・学び方のサイクルを知り、調べたことを適切にま とめ表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会的事象から児童が主体的に学習問題や 学習計画を立てるようにする。 ・【課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現 →振り返り】の学習過程を定着させ、児童が見通 しをもって学習に取組めるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の結果を比較すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・差異点や共通点を基に、問題を見いだす力。 ・観察や実験などに関する基本的な技能を身に付け る力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「比較のメガネ」を合言葉に、差異点や共通点を見 付けるポイントを意識しながら観察や実験結果な どを比較する機会を増やす。 ・比較しやすいように、観察物を並べて掛けるよう なワークシートにしたり、記録を表にしたりする などかき方を工夫する。

令和7年度 第4学年 授業改善推進プラン

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が定着していない児童がいる。 ・物語、説明文の読み取が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や筆者の考えを捉え、自分の考えと比較する。 ・説明文では「理由」や「事例」といった論理的なつながりを読み取る。 ・物語文では登場人物の気持ちや行動の理由を考え、自分の生活と関連づけて考える。 ・必要な情報を整理し、自分の言葉でまとめたり説明したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方を活用する。 ・漢字は「計画→テスト→分析→練習」の学習の流れを活用して覚えさせる。 ・友達に分かった事を伝える。 ・学習評価をはっきりさせ、振り返りをさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算力や、自分の考えをうまく説明できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力。 ・図や表を使って関係を整理する。 ・問題解決の過程を友達に説明する。 ・「なぜそうなるのか」を理由とともに考える。 ・間違いを振り返って学び直す意欲。 ・「もっと工夫したい」「調べてみたい」といった探究心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習を段階的に取り入れていく。(答えのない物) ・基礎学力シートを活用し、授業のはじめに、読む。 ・話の型もいれる。「なぜか」というと、」など。 ・隣の人に、自分の考えを説明できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉でまとめめる力が弱い。 ・知識の定着が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜその地域で特定の産業が盛んなのか、自然条件や人々の努力と関連づけて説明する力。 ・地図・資料・統計を用いて、自分の考えや根拠を示しながら説明する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめではメタモジを活用するなど、学習した内容や自分の考えを整理していく時間をとる。友達との見合いや発表を通して、やってみようとする意欲をもたせる。見方・考え方の多面的(物)多角的(人)を活用する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着が弱い。 ・なぜそうなるのか、説明する力が弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識の定着。 ・調べ方を考え、観察や実験を通して検証することができる。 ・結果を比較したり関係を見いだしたりして、理由を考え説明できる。 ・観察・実験の結果を整理して、筋道立てて分かりやすく表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方の五感を活用する。 ・友達に分かった事を伝える。 ・学習評価をはっきりさせ、振り返りをさせる。

令和7年度 第5学年 授業改善推進プラン

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	令和7年度総合学力調査より総合的な目標値より高い正答率だという結果が出た。また、前年度の結果や区、国との比較をしても高い傾向にあった。一方で書くこと「漢字を書く」や「調べたことをもとに書く」は数値が低い傾向にあることも分かった。単元テストでは、読み取りはできるものの、読み取ったことから自分の考えを書くことが苦手という課題もある。	・漢字・熟語の学習、読書活動だけではなく、協働的に学ぶことで語彙を広げ、自分の気持ちや考えを表現する語彙を増やし、豊かにする。 ・自分の考えを整理して書き出すことに加え、協働的に学ぶために自分の情報や文を友達の情報と比べたり、整理したりして検討していくことで、自分の考えに自信をもち、深まりのある内容になるようにする。	・漢字は週に1回範囲を伝え確認テストを行う。漢字は「覚えること」より「使えること」を目指すため、熟語も併せて練習させる。また、漢字テスト内でも点数化することで児童の意欲を高める。 ・「調べたことをもとに書く」では、読み取ったことをメモにして整理させる経験や、思考ツールを活用してまとめさせる経験を意図的に増やすようとする。調べたことや読み取ったことを整理してから書く活動につなげることで深い学びにする。
算数	令和7年度総合学力調査より総合的な目標値より高い正答率だという結果が出た。また、前年度の結果や区、全国との比較をしても高い傾向にあった。 単元テストでは小数で行うかけ算とわり算の点数が低く、比べられる数やもともにする数を整理して解く小数の倍に苦手意識をもっている子が多くいた。	・学習内容を理解するために自分の考えを残すこと、その理解した知識及び技能を使い、適用問題を解くことが確実にできるようにする。 ・自己調整、学び方の自己選択ができ、学びを振り返りながら進んで課題解決ができるようにする。	・自由進度学習、担任による個別指導、算数少人数の3展開で指導を進め、個別最適な学びの機会を作る。算数少人数以外は共通の振り返りシートを活用し、学びの状況を児童も教師も把握できるようにする。単元内、全ての時間を自由進度学習ではなく、一斉指導や確認問題の時間も意図的に設ける。
社会	令和7年度総合学力調査より総合的な目標値より高い正答率だという結果が出た。また、前年度の結果や区、全国との比較をしても高い傾向にあった。「基礎的知識」も「活用」もどちらも区、全国平均よりも高かったことから学びがどちらかに偏っていないこともわかった。「都道府県の様子」に関する内容がやや低かったので、地理・地形に関する内容に苦手意識がある児童が多いと考えられる。	・資料や既習事項から疑問を感じ、予想を立て、学習意欲を高め、学習課題を自分でつくることができるようになる。学習課題を解決するための調べる方法や手順を自分で考え、調べてわかったことと考えたことを分けてまとめ、表現することができるようになる。その際、他者の調べたことや考えを使い、よりよくしながら協動的に学ぶことができるようになる。	・学習課題を自分でつくることができるような単元導入時の資料等を工夫する。社会科の用語や知識に関しては、タブレットの学習ソフトを使い、繰り返し練習したり間違えた問題を定着するまで取り組んだりすることができるようになる。単元毎にまとめたことを表現する形態を変え、個、グループ、全体での学びの良さを生かした学習を展開するようになる。
理科	令和7年度総合学力調査より総合的な目標値より4ポイント低いという結果が出た。基礎、活用ともに数値が低い。また、単元によって約70%の正答率もあれば、20%台の正答率もある。そのため、まずは知識及び技能の習得を確実に行えるようにする。さらに、1学期末に行った振り返りでは、児童自身も理科を苦手と考えている子も多いことが分かった。単元後の姿や児童にとってはゴールを明確にし、探究的に学びに向かい、主体的な学びができるようにする。	・単元のキーワードになるような言葉を理解し、観察、実験を行えるようにする。また、学んだことを自分の言葉で説明したり、他者の結果や考え方と比較・検討したりできるようにする。 ・時間的、空間的、数量的、関係的など、その単元で働くさせる見方・考え方の視点を与え、それに沿った打倒的な考えをもてるようにする。	・反転(的)学習指導方法で知識及び技能を身に付けさせる。その後、身に付けた知識及び技能を活用させ、観察や実験を行わせることで理解を体験的に深めができるようになる。身に付けた力を確かめることや知っていることを使って他者に説明すること、そして自分で新たな疑問を見付け探究的に学んでいくことをプロセスとして指導する。単元テストではなく、単元前と単元後の知識の量の違いを書かせることやタブレット端末を活用した確認問題を行うことで、自分の学びを振り返り、学習状況を理解できるようになる。

令和7年度 第6学年 授業改善推進プラン

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の構成と内容の両面を正しく読み取り、自分の意見や考えを表現すること。 ・筆者の主張と事例の関係を理解し、自分の経験と結び付けて自分の考え方や伝えたいことを明確にして、筋道の通った文章を書き表すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げたり深めたりする力。 ・目的や意図に応じて、自分の考えを筋道を立てて書き表す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合い活動を通して、文章から分かったことや考えたことを共有できる場を設定し、考えを比較しながら共通点や相違点に気付かせる。 ・事実と意見・感想とをはっきりと区別させたり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えを的確に表現できる場を作る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を正しく捉え、解決すること。 ・式や図を用いて、自分の考え方を説明すること。 ・自分の課題や特性を正しく理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題から数量関係について理解し、正しく立式する力。 ・自分の考え方を筋道を立てて説明する力。 ・問題解決の結果を多面的に捉えて分析し、評価・改善する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習を取り入れ、自力解決の時間を確実に確保し、友達との意見交流の場を作った上で、自分の考え方を説明させる。 ・毎時間、学習を振り返って理解できたこと、理解できなかったこと、次の課題設定等を一枚のシートに書き込み、見通しをもったり、自分の課題に気付いたりしながら、学習を進めていけるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料やグラフ・表などの資料等を正確に読み取ること。 ・学習内容と日常生活の関連を図り、自ら課題を設定し、解決に向けて主体的に考え、学習に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料から情報を適切に調べまとめる力。 ・学習の課題を追及・解決する活動を通した課題解決的な力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習を取り入れ、授業の終盤には、自分の言葉でまとめたり、考えたりしたことを相手に伝える機会を設定することで学習の定着を目指す。 ・導入で日常生活と関連づけた指導を取り入れ、自分事として学習課題を設定し、追究→解決していくようにする。 また、【課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り】の学習過程を定着させる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を習得し、日常的に理科への関心を高めること。 ・単元について、見通しをもち、主体的に課題を解決すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察などに対して主体的に取り組む力。 ・見通しをもって、主体的に課題を解決する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反転学習を行うことにより、予め実験等に必要な知識や技能を自学自習した上で学習に臨めるようにさせる。そのためには必要な動画資料や器具は児童の手の届きやすい所へ準備をしておく。 ・【問題発見→予想→実験方法→実験→結果→考察→まとめ→振り返り】の学習過程を定着させ、児童が見通しをもって学習に臨めるようにする。